

株主メモ	
事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月
基準日	1月31日
剰余金の配当の基準日	1月31日、7月31日(中間配当を行う場合)
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 同事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL 0120-094-777(通話料無料)
公告掲載方法	電子公告によりホームページ(http://www.artner.co.jp/)に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。

『IRメール配信』サービス

Eメールアドレスをご登録いただいた方に「投資家情報」の更新、決算、ニュースリリース、その他、重要事項の最新情報を、Eメールにて配信いたします(無料)。

下記URLまたはQRコードからサイトにアクセスしてご登録ください。

<http://www.artner.co.jp/ir/mail/>



↑QRコードからアクセス

当社のIR活動が表彰を受けました!

第4回企業価値向上表彰 <http://www.artner.co.jp/ir/prize/>

株式会社東京証券取引所が、企業価値向上表彰の一次選抜において選定された上場会社(49社)を、企業価値の向上を目指した経営を実践している会社として、選定の視点と併せて公表いたしました。当社は上記の一次選抜において選定されました。

日興アイ・アール株式会社

2015年度全上場企業
ホームページ充実度ランキング

- 総合ランキング「最優秀サイト」
- 業種別ランキング「最優秀サイト」(サービス業1位)
- 新興市場ランキング「最優秀サイト」(1位)

ゴメス・コンサルティング株式会社

Gomez IRサイト
ランキング2015

- 総合ランキング「優秀企業」(銅賞)(71位)
- 業種別ランキング(サービス業5位)
- 新興市場ランキング(2位)

株式会社アルトナー

東京本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-5-5 住友不動産新横浜ビル5F
大阪本社 〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル2F

ウェブサイト/投資家情報のご紹介

<http://www.artner.co.jp/>

アルトナー 検索



リニューアル
しました!

▲トップページ



▲投資家情報(トップページ▶投資家情報)

エンジニアインタビュー等
動画ならではの当社情報を配信中!



▲<https://www.youtube.com/>より

アルトナー公式 検索

その他、学生向け新コンテンツの
詳細を本誌P6で紹介しております。

54 | IR W

株式会社アルトナー

第54期 IRレポート【期末】

2015年2月1日～2016年1月31日

証券コード: 2163

特集: 燃料電池自動車(FCV)開発に
携わる技術者インタビュー

— Create the Future —

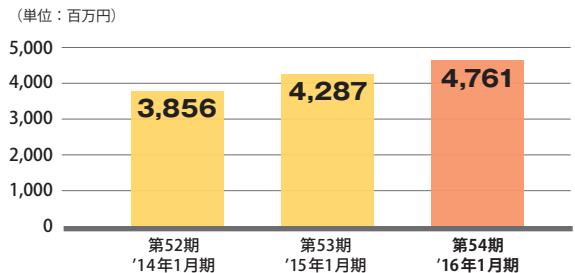
ARTNER



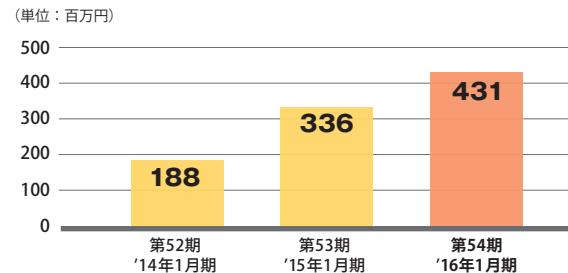
第54期 業績ハイライト

※百万円未満を切り捨てています。

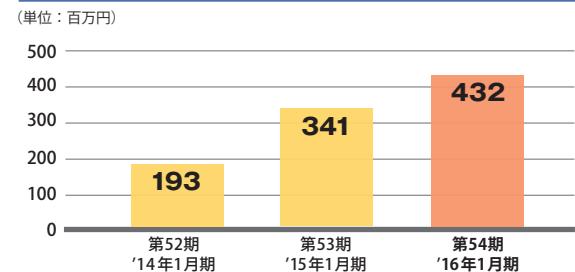
売上高 4,761百万円 11.0%増 (前年同期比)



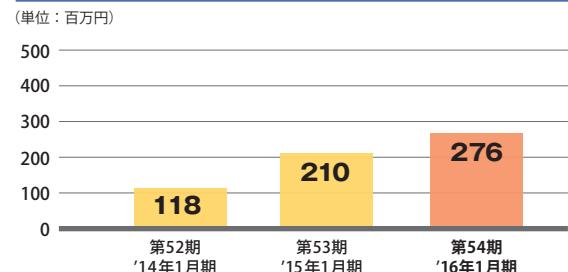
営業利益 431百万円 28.3%増 (前年同期比)



経常利益 432百万円 26.6%増 (前年同期比)

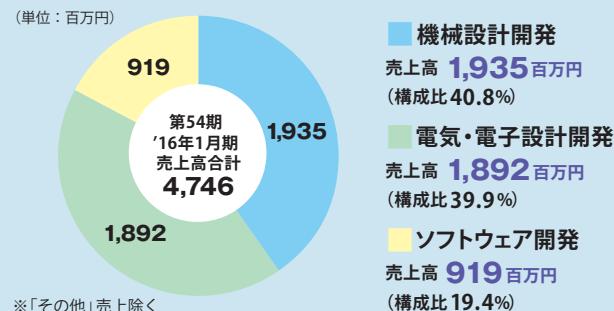


当期純利益 276百万円 31.3%増 (前年同期比)



ROE(自己資本当期純利益率)他 経営指標に関する詳細は ▶アルトナーサイトTOP ▶投資家情報 ▶業績・財務情報 ▶主要経営指標を参照

第54期 分野別売上高^(※)



利益還元について

第54期 1株当たり配当金 …… **35円**

(中間配当) **15円** + (期末配当) **20円**

期末配当として20円(前回予想から5円増配)、中間配当の15円と合わせて年間合計で35円の配当を実施いたしました。配当性向は33.6%。

トップコミットメント

中期経営計画が順調に進捗し、 2期連続で増収・増益を達成しました。

第54期(2016年1月期)の業績、第55期(2017年1月期)の業績予想、中期経営計画(第54期～第56期)の進捗について、ご説明させていただきます。

代表取締役社長 関口相三

第54期(2016年1月期)の市場環境

輸送用機器分野や精密機器分野での 技術者要請が好調。

当社を取り巻く市場環境としては、自動車を中心とした輸送用機器分野においては、水素エネルギー技術を活用した燃料電池自動車、自動運転技術を備えた先進安全自動車等、また、精密機器分野においては、すべてのモノにインターネット通信機能を持たせるIoT(Internet of Things)の市場拡大に伴う次世代半導体の製造装置の開発のため、技術者要請が増加しました。

※「燃料電池自動車」の詳細については、P7「燃料電池自動車(FCV)開発に携わる技術者インタビュー」を参照

第54期(2016年1月期)の業績概要

技術者単価と定着率の向上等により 前年を上回る増収・増益に着地。

これらの市場環境の下、旺盛な技術者需要のみならず、技術者の質が向上したため、技術者単価が増加。稼働人員(技術者数×稼働率)や労働工数等のすべての売上構成要素において、前年度を上回る結果となりました。また、当社の技術者のマッチング精度の高さが顧客企業からの信頼獲得につながり、上期には、ほぼすべての新卒技術者の配属を完了させました。これらを踏まえ、売上高は4,761百万円(前年同期比11.0%増)、営業利益は431百万円(前年同期比28.3%増)、経常利益は432百万円(前年同期比26.6%増)、当期純利益は276百万円(前年同期比31.3%増)となり、2期連続で増収・増益を達成しました。

Top Commitment

第55期(2017年1月期)の業績予想

顧客企業や技術者の満足度をさらに向上させて、第54期を上回る業績拡大を推進。

第55期は、世界中の注目が日本に集まる2020年の東京オリンピックへ向け、最先端の自動車技術、道路・信号等のセンサー、情報通信インフラ等の開発が活発化することが期待できます。それに伴う当社への技術者要請の高まりにより、増収・増益基調が継続していくと予想しております。その一方、年初からの株安、円高等の懸念材料があるため、注視が必要な状況です。

今後、成長が見込まれるIoT技術分野、データ処理を行う業界等にも着目しながら、第54期を上回る業績拡大を目指していきたいと考えております。



また、採用活動予算を増加させ、学生目線の情報発信を柔軟に行い、採用を強化してまいります。

これらを踏まえ、第55期の通期業績の見通しは、売上高は5,000百万円、営業利益は499百万円、経常利益は501百万円、当期純利益は334百万円の増収・増益を見込んでおります。

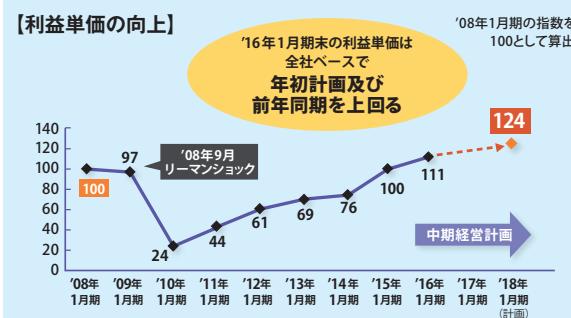
中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)の基本目標の進捗

『利益単価の向上』は目標数値を大きく更新し、『技術者数の回復』も、堅調に推移。

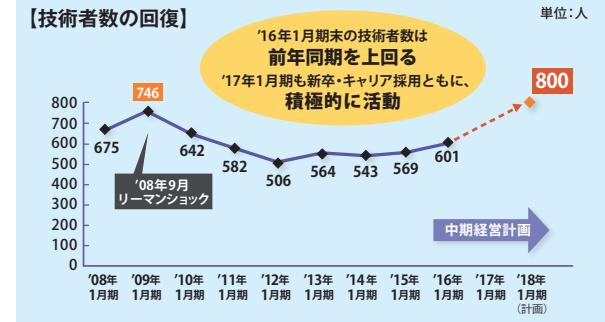
第52期(2014年1月期)に事業モデルを刷新し、4事業部門体制のもとで『利益単価の向上』と『技術者数の回復』を目指してきた当社は、第54期(2016年1月期)に新たな3ヶ年中期経営計画をスタートしました。

第54期の『利益単価の向上』においては、目標数値を上回り、『技術者数の回復』においては、第54期の新卒入社者数は75名、キャリア入社者数は、第二新卒を含む既卒者へと対象範囲を拡げたことから目標以上の21名となり、堅調に推移しています。

※「4事業部門」の詳細については、P5を参照



※利益単価=当社内で独自に管理している技術者1人当たり、1時間当たりの単価に占める利益



また、技術者の定着率も向上しており、これらの結果から、顧客企業及び技術者のいずれからの満足度も向上しているものと推察できます。引き続き満足度の向上に努めてまいります。

中期経営計画達成のための今後の取り組み

更なるセグメント化と付加価値、マッチング精度を高めていくための新たな施策に着手。

当社で最もボリューム層の厚いエンジニア(EG)事業部門を、ハイバリューマーケット、ワイドバリューマーケット、プロダクトバリューマーケットという縦軸の開発業務レベルでセグメント化し、マッチング精度を高めてまいります。

採用の根本はマーケットインですので、水素エネルギー技術分野においては、顧客ニーズに基づき、機械、電気・電子、ソフトウェアに加えて、化学的基礎知識を持った技術者の確保に努め、競合他社との差別化を図っていききたいと考えております。



投資家の皆様へ

継続的な増収・増益を目指し、安定配当を提供するのが、当社の使命。

株主・投資家の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

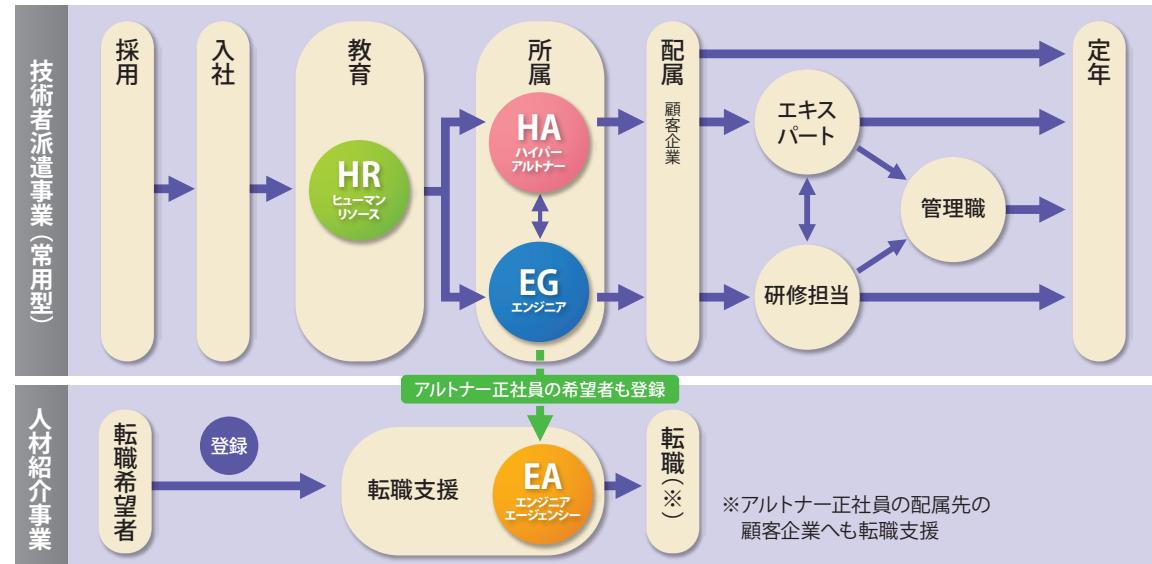
顧客企業のニーズにマッチした人材を教育して提供することで、利益につなげ、その利益を株主・投資家の皆様や従業員に還元し、当社に関わるすべての人々に満足をもたらすことが、私たちの使命です。また、当社では株主・投資家の皆様に、安定的な配当を実施することを、経営の最重要課題と位置付けています。第54期の配当は、中間配当15円、期末配当20円(前回予想から5円増額)、合計35円となりました。第55期の配当は、中間配当20円、期末配当20円、合計40円を予定しております。

今後も、皆様の継続的なご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、何卒、宜しく願い申し上げます。

ワンストップ体制 & ビジネスモデル

技術開発の強力なパートナーとして、多様なニーズにお応えいたします

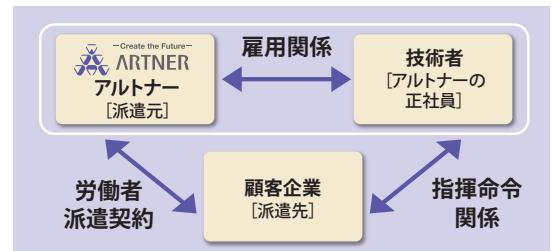
【4事業部門からなるワンストップ体制】



【ビジネスモデル】

技術者派遣事業 (常用型)

技術者はアルトナー正社員のため、顧客企業と技術者は指揮命令関係にあるのみ。雇用コストや時間の大幅な低減が可能。

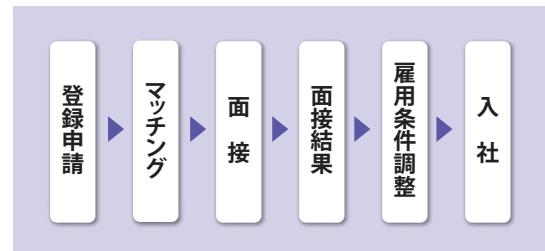


請負・受託事業

顧客企業の設計開発業務そのものを受注し、開発から技術周辺、納品まで幅広い要望に対応。

人材紹介事業

転職希望のアルトナー正社員または外部就職・転職希望者と顧客企業のマッチング支援サービス。双方の合意下で雇用契約が成立。



紹介予定派遣事業

顧客企業の直接雇用を前提に、転職希望者が一定期間(最長6ヶ月)就労。期間終了後に、双方の合意下で直接雇用へ転換。

中期経営計画

(2016年1月期 ▶ 2018年1月期)

※詳細はアルトナーサイトTOP ▶ 投資家情報 ▶ 経営方針 ▶ 中期経営計画参照

4事業部門を設置 (2013年2月より)	基本目標と進捗	今後の取り組み
<ul style="list-style-type: none"> HA ハイパーアルトナー事業部門 成果報酬型のエキスパートによるハイエンド業務対応 EG エンジニア事業部門 地域限定希望者によるハイエンド～ローエンド業務対応 EA エンジニアエージェンシー事業部門 メーカーへの人材紹介、キャリア採用、新卒採用業務対応 HR ヒューマンリソース事業部門 教育業務対応 	<p>利益単価の向上</p> <p>'18年1月期には、全社ベースで、'15年1月期比24%増を目指す。</p> <p>技術者数の回復</p> <p>'18年1月期には、リーマンショックでの減少前を上回る水準である800人規模を目指す。</p>	<p>EG事業部門</p> <p>開発業務レベルで下記のセグメント化を実施。マッチング精度を高める。</p> <p>ハイバリューマーケット ワイドバリューマーケット プロダクトバリューマーケット</p> <p>採用活動</p> <p>顧客企業のニーズに基づき、機械・電気・電子、ソフトウェアに加えて、化学的基礎知識を持った技術者の確保。</p> <p>⇒ 競合他社との差別化を図る。</p>



「より良い採用」を目指したアルトナーの取り組み

学生目線の情報発信に注力、ウェブサイトにも新コンテンツを公開

アルトナーでは、技術者志望の学生をはじめ、保護者や学校関係者のご意見やご要望を伺いながら新しいスタイルの情報づくりを進めています。

その取り組みの一例が、当社で働く魅力と満足度を訴求したウェブサイトコンテンツ『先輩社員インタビュー(’15年秋公開)』、アルトナーに入社してから定年までのキャリアパスを描きやすいようにまとめた『アルトナーのキャリアパス(’16年1月公開)』です。

今後も、皆様に役立てていただける情報を積極的に発信しながら、新卒及びキャリア採用を強化してまいります。



●『先輩社員インタビュー』
技術者の業務内容、やりがいをインタビューや動画で紹介
<http://www.artner.co.jp/interview/>

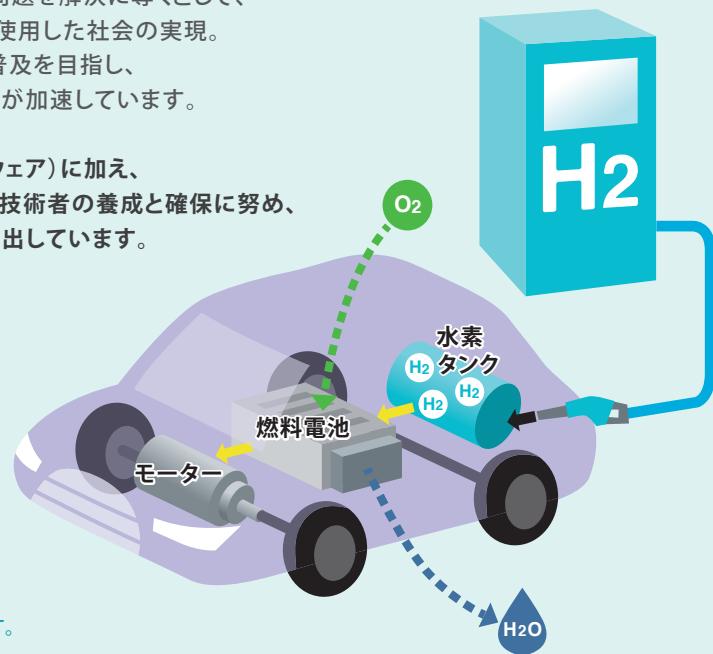


●『アルトナーのキャリアパス』
各年代の技術者とスタッフの目標や成長プロセスをご紹介
<http://www.artner.co.jp/careerpath/>

燃料電池自動車 (FCV) 開発に携わる技術者インタビュー

「究極のエコカー」として注目を集め、本格普及に向けて開発が急がれる燃料電池自動車(FCV)。

環境への負荷軽減等により、日本のエネルギー問題を解決に導くとして、政府が主体となり推進される水素エネルギーを使用した社会の実現。その中でも燃料電池自動車(FCV)は、世界的な普及を目指し、大手自動車メーカーをはじめ関連企業での開発が加速しています。顧客企業のニーズに応えるべく、アルトナーでは従来の設計開発分野(機械、電気・電子、ソフトウェア)に加え、FCV開発に必要なとなる化学の基礎知識を持った技術者の養成と確保に努め、既に複数の関連プロジェクトに即戦力として送り出しています。

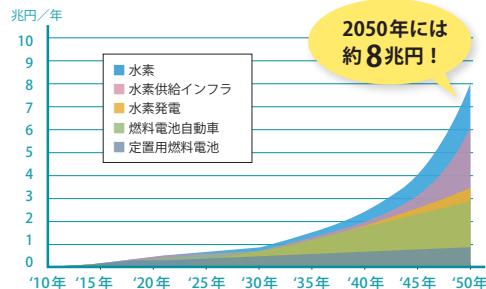


燃料電池自動車(FCV)とは？

FCV= Fuel Cell Vehicle

水素ステーションから車載タンクに充填された水素と、空気中の酸素の電気化学反応によって発生する電気を使ってモーターを駆動させる自動車。走行中に排出するのは水のみで、「究極のエコカー」と呼ばれています。また、発電した電力を外部に供給する機能もあり、災害時に避難所に対して電力供給を行うことも可能です。

我が国における水素・燃料電池関連の市場規模予測



出典：日本エネルギー経済研究所

FCV等の普及促進に向けた7つの主要課題

- ① 燃料電池システム等のコスト削減 P8: 技術者インタビュー(Case 01)参照
- ② FCVの基本性能の向上 P8: 技術者インタビュー(Case 03)参照
- ③ FCVの海外展開
- ④ FCVの認知度や理解度の向上
- ⑤ 燃料電池の利用用途の拡大
- ⑥ ガソリン車等と遜色のない燃料代となる水素価格の設定
- ⑦ 水素ステーションの整備 P8: 技術者インタビュー(Case 02)参照

参考：経済産業省「水素・燃料電池戦略ロードマップ」

Case 01

燃料電池の試作、評価を通してコスト削減の実現に挑む

EG事業部門 橋本 浩幸

- 2009年4月入社
- 学生時代の専攻科目 理学研究科 応用物理学専攻
- 所属分野 電気・電子設計開発

担当業務 燃料電池の設計開発における、試作、評価計画の立案、実験評価、レポート作成



やりがい リチウムイオン電池の先行開発業務に携わっていたことをきっかけに、燃料電池電極の源泉工程開発(材料選定や工法開発)の試作に関わる、現在のプロジェクトに参画しています。FCVの車両価格はまだ高額で、普及を加速させるにはコストの削減も課題のひとつです。過去の実績がないため、どのような問題が発生するかの推測が非常に難しく、その解答を先回りして探り求めていく必要があります。最先端の開発分野に関われ、水素社会の実現に貢献できること、世界初のFCV量産型市販化現場に立ち会えたことを誇りに、今後も努力を重ねていきたいと思っています。

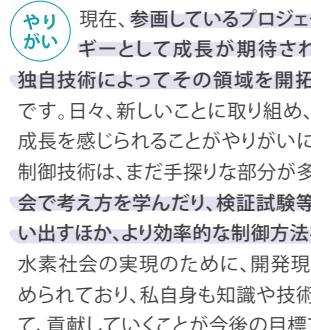
Case 02

FCVの普及に不可欠な水素ステーション開発に貢献

HA事業部門 上田 智博

- 2015年4月入社
- 学生時代の専攻科目 自然科学研究科 理学専攻
- 所属分野 ソフトウェア開発

担当業務 水素ステーション設計開発における、ソフトウェア設計及びシステムテスト



やりがい 現在、参画しているプロジェクトは、次世代エネルギーとして成長が期待されている分野であり、独自技術によってその領域を開拓していることが魅力です。日々、新しいことに取り組み、業務を通じて自身の成長を感じられることがやりがいにつながっています。制御技術は、まだ手探りな部分が多く、アルトナーの勉強会で考え方を学んだり、検証試験等を通して問題点を洗い出すほか、より効率的な制御方法を模索しています。水素社会の実現のために、開発現場ではスピードが求められており、私自身も知識や技術をいち早く身に付けて、貢献していくことが今後の目標です。

Case 03

基本性能の向上を目指し実車テストや解析等に携わる

HA事業部門 伊藤 雅彦

- 2014年4月入社
- 学生時代の専攻科目 知能情報学部 知能情報学科
- 所属分野 電気・電子設計開発

担当業務 燃料電池自動車の実車におけるハードウェア・ソフトウェアの仕様確認及び、基本性能の確認・解析等



やりがい 以前、車載用インバータに関する業務を手がけたことから自動車業界に興味を持つようになり、現在のプロジェクトへの配属を希望しました。さまざまな条件下で試験車両を走行させて、データの収集をしたり、異常発生時の解析等を担当して、気象データから実際に起こりうる動作環境を設定、それに適応できるような仕様を設定しています。まだ世の中に出ていない最先端技術に携われるため、やりがいは充分です。チームメンバーとFCVについての勉強会も行っており、ここで得た担当領域外の知識が、業務に役立っています。

要約財務諸表

科目	第53期末 2015年1月31日現在	第54期末 2016年1月31日現在
資産の部		
流動資産	1,627	1,895
固定資産	203	207
有形固定資産	84	81
無形固定資産	26	22
投資その他の資産	92	103
資産合計	1,830	2,102 <small>ポイント①-A</small>
負債の部		
流動負債	595	623
固定負債	82	121
負債合計	677	744 <small>ポイント①-B</small>
純資産の部		
株主資本	1,151	1,355
資本金	238	238
資本剰余金	168	168
利益剰余金	745	949
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	1	2
その他有価証券評価差額金	1	2
純資産合計	1,153	1,357 <small>ポイント①-C</small>
負債純資産合計	1,830	2,102

POINT

ポイント① 貸借対照表

- ① 総資産は、現預金、売上債権の増加により、前事業年度末に比べ271百万円増加。
- ② 負債は、未払消費税等の減少があったものの、退職給付引当金、賞与引当金の増加により、前事業年度末に比べ66百万円増加。
- ③ 純資産は、利益剰余金の増加により、前事業年度末に比べ204百万円増加。

ポイント② 損益計算書

- ① 売上高は、稼働人員、技術者単価、労働工数の増加により、前年同期比11.0%増の4,761百万円。
- ② 利益面においては、売上高の増加に加え、稼働率が高水準で推移した影響もあり、営業利益は前年同期比28.3%増の431百万円、経常利益は前年同期比26.6%増の432百万円、当期純利益は前年同期比31.3%増の276百万円。

※百万円未満を切り捨てています。

科目	第53期 2014年2月1日から 2015年1月31日まで	第54期 2015年2月1日から 2016年1月31日まで
売上高	4,287	4,761 <small>ポイント②-A</small>
売上原価	2,869	3,181
売上総利益	1,418	1,580
販売費及び一般管理費	1,081	1,148
営業利益	336	431 <small>ポイント②-B</small>
営業外収益	5	10
営業外費用	0	9
経常利益	341	432 <small>ポイント②-B</small>
特別損失	3	5
税引前当期純利益	338	427
法人税、住民税及び事業税	139	176
法人税等調整額	△11	△25
当期純利益	210	276 <small>ポイント②-B</small>

キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位: 百万円)

科目	第53期 2014年2月1日から 2015年1月31日まで	第54期 2015年2月1日から 2016年1月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	512	307 <small>ポイント③-A</small>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15	△3 <small>ポイント③-C</small>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△123	△79 <small>ポイント③-D</small>
現金及び現金同等物の増減額	373	225
現金及び現金同等物の期首残高	703	1,076
現金及び現金同等物の期末残高	1,076	1,301 <small>ポイント③-A</small>

POINT

ポイント③ キャッシュ・フロー計算書

- ① 当事業年度末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ225百万円増加。
- ② 営業活動CFは、法人税等の支払があったものの、税引前当期純利益、退職給付引当金の増加により、307百万円のプラス。
- ③ 投資活動CFは、無形固定資産の取得による支出により、3百万円のマイナス。
- ④ 財務活動CFは、配当金の支払により、79百万円のマイナス。

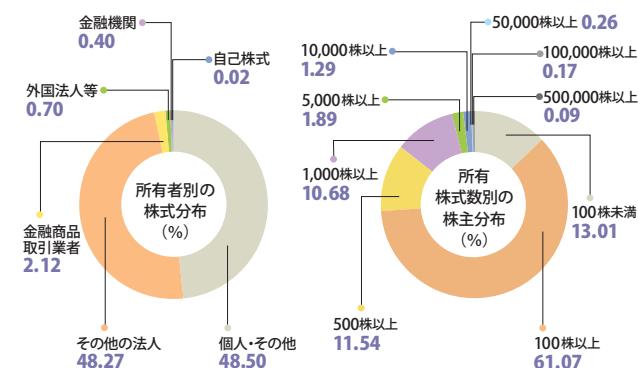
会社・株式情報 (2016年1月31日現在)

名称	株式会社アルトナー	事業内容	一般労働者派遣事業 (常用型、登録型) (許可番号 派27-020513) 有料職業紹介事業(許可番号 27-ユ-020355) 1)機械設計 2)電気・電子設計 3)ソフトウェア開発 上記分野の設計製作及び設計技術周辺業務
設立	1962年9月	社員数	680名
代表者	代表取締役社長 関口 相三		
株式	東京証券取引所JASDAQ(スタンダード) (証券コード:2163)		
資本金	2億3,828万4,320円		
本社	東京本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-5-5 住友不動産新横浜ビル5F 大阪本社 〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル2F		

役員一覧

代表取締役社長	関口 相三
取締役	奥坂 一也
取締役	張替 朋則
取締役	江上 洋二
取締役	佐藤 宗
常勤監査役	三谷 高昭
監査役	金井 博基
監査役	福室 孝三郎

株式の分布状況



株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000 株
発行済株式の総数	2,656,980 株
株主数	1,161人

大株主の状況

氏名または名称	所有株式数(株)	割合(%)
株式会社 関口興業社	1,155,000	43.47
アルトナー従業員持株会	321,012	12.08
大阪中小企業投資育成株式会社	120,000	4.51
田中 幸夫	83,100	3.12
張替 朋則	72,560	2.73
奥坂 一也	68,720	2.58
横田 成昭	36,000	1.35
江上 洋二	25,388	0.95
船津 英世	24,300	0.91
株式会社 SBI証券	22,000	0.82
合計	1,928,080	72.56